

杉浦(松波)総合病院 最高峰に挑む

柔道男子66^{kg}級の杉浦冬唯(松波総合病院)が、パリ五輪代表第1次選考会を兼ねた講道館杯全日本体重別選手権(11月・千葉)に向けて稽古に汗を流している。8月の全日本実業個人選手権で3位に入り、国内最高峰の同杯への出場権を獲得。「目標は優勝のみ」と自身初のタイトルを渴望する。

岐阜市出身の23歳。4歳で競技を始め、岐阜西中から愛知県の強豪・同朋高に進学した。愛知大を卒業後にUターン就職し、病院の業務部で物品調達などを担う。練習に専念できる環境にあるトップ選手もいる

講道館杯柔道出場

仕事と両立、必勝誓う

中、仕事と武道を両立しながら腕を磨く。

柔道家としては遅咲きだ。頭角を現したのは愛知大4年時で、全日本学生体重別選手権で準優勝に輝いた。高校時代は全国総体の出場経験もなく、「人生で全国大会の上位に残れたのは初めて」と振り返る。昨年の全日本実業個人選手権では準優勝と、以降安定した成績を残している。

目下の目標は「日本一」。20年の競技人生で一度も経験はなく、8月の大会も延長戦までもつれた準決勝で技ありを奪われて敗れた。近くて遠い残り1、2勝に「試合の中で攻めの形のパターンを増やすこと」と課題を挙げる。思い通りにいかない展開の中でも、積極的に次の一手を仕掛ける姿勢を磨く。

講道館杯まで残された時間は決して多くない。「しっかりタイトルを取り、まずは全日本連盟のB強化指定になければ」。憧れのJAPANNの柔道着に袖を通すため、一戦必勝を誓う。

(浜田悠)

勤務を終えて稽古に汗を流す杉浦冬唯
(右) 松波総合病院

